

みくに



みくに園の今年のいちご

社会福祉法人 みくに園
障害者支援施設 みくに成人寮
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

「高田久理事長がなされた業」

施設長 高田安司

高田久理事長が天に召されました。社会福祉法人みくに園が創設以来3年目を迎ますが今日まで私たちをいつも正しい「道」に導いてくれました。

みくに園の前身は保育園で、昭和58年当時香川県には知的障害者の施設が少なく、島の過疎化に伴って閉鎖した保育園を障害者の施設に転用してくれないかと県より要請があり、いろいろ迷いもあったそうですが昭和60年4月に開設に至りました。高田理事長の信念の原点には聖書の言葉『はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』(マタイによる福音書25章40節)がある。

「知的障害者は1000人に1人～2人生まれる確率をもっている。従って私がその中に入っていれば障害者であっても何の不思議もない。今日健常者であったのはラッキーだったというのではなくて、代わって重荷を背負ってくれた者がいてくれた。『この最も小さい者の一人にしたのはこのわたしにしてくれたことなのである』と主は言っておられる。ハンディを持った人に仕えるとき、キリストは私の前に姿を見せて下さる。即ちキリストとの出会いがあるという信仰の喜びを体験しつつ歩んでいる。多くの困難にであったが、主のなさる御業は真に力強いものであることを絶えず実感した歩みでもあった」と記されてある。

高田理事長はみくに園の理事長・施設長（昭和63年から平成20年）香川県知的障害者福祉協会会長（平成14年から平成18年）の重責を担われました。又長年の福祉の功労者として、日本知的障害者福祉協会愛護福祉賞、香川県知事賞、厚生労働大臣賞を受賞されています。長きにわたり私達の先頭に立って共に歩んで下さりありがとうございました。そして何よりも昭和の時代・平成の時代を生き抜いた大先輩にもっともっと「多く」を教えて頂き、語って頂きたかった。

【高田久理事長 略歴】



理事長が愛した
みくに園の芝桜

1928年（昭和3年）

4月29日、広島県三原市生まれ。

1945年（昭和20年）

香川県立丸亀中学校（旧制中学）卒業。

日本通運で経理・会社のシステム開発に関わる。

富士通四国インフォテックでシステム開発に関わる。

57歳で退職。

社会福祉法人神愛保育園開設。理事長就任。

園児減少につき休園。

社会福祉法人みくに園開設。理事長就任。

全国社会福祉協議会主催 社会福祉施設長資格認定講習課程修了。

障害者支援施設みくに成人寮施設長就任。

香川県知的障害者福祉協会会长就任。

香川県知的障害者福祉協会会长退任。

障害者支援施設みくに成人寮施設長退任。

12月29日、逝去。享年90歳。

1965年（昭和40年）

社会福祉法人神愛保育園開設。理事長就任。

1984年（昭和59年）

園児減少につき休園。

1985年（昭和60年）

社会福祉法人みくに園開設。理事長就任。

1988年（昭和63年）

全国社会福祉協議会主催 社会福祉施設長資格認定講習課程修了。

1988年（昭和63年）

障害者支援施設みくに成人寮施設長就任。

2002年（平成14年）

香川県知的障害者福祉協会会长就任。

2006年（平成18年）

香川県知的障害者福祉協会会长退任。

2008年（平成20年）

障害者支援施設みくに成人寮施設長退任。

2018年（平成30年）

日本キリスト教団 高松教会役員、教会学校校長を歴任。

【受賞歴】

日本知的障害者福祉協会愛護福祉賞(平成18年)

香川県知事賞(平成25年)

厚生労働大臣賞(平成25年)

日本知的障害者福祉協会

愛護福祉賞授賞式



香川県知事賞授賞式



厚生労働大臣賞授賞式



職員研修旅行



みくに船進水式



「高田理事長安らかに」

保護者会会長 時岡博美

「時岡さん握手しましょう」と高田理事長に言われて握手をしたのは昨年の秋でした。今思うとそれが最後の高田理事長との握手でした。それから少し経った年の瀬に高田理事長は主のみもとへと召されました。高田理事長の手は初めて会った時と変わらず温かく人の心を包み込んでくださる優しい手でした。

高田理事長と初めてお会いしたのは今から19年前。息子が入所できる施設を一年余り探し続けて、家から遠いと後回しにしていたみくに園に見学に行き、高田理事長とお会いしました。施設のこと、設立に至った経緯、今後のビジョンなどフェリーの時間までゆっくりと話してくださいました。帰り際に理事長は「またお会いしましょう」と私と家族全員と握手してくださいました。当時は、みくに船もなく、フェリーを乗り継いで豊島まで行ったことを覚えています。多くの施設を見学してなかなか決めることができなかつた私と家族が、帰りのフェリーに乗る前にすでにみくに園にお世話になることに決めていたことは言うまでもありません。

息子が入所して数年経った頃、あの時高田理事長が話していた通り、みくに船が導入されました。「入所者や私たちの利便性ばかりだけでなく、職員の採用の幅を広げることもできるのですよ」と嬉しそうに話してくださいました。一つ一つしっかりとビジョンを実現していく理事長をとても頼もしく思っていました。また高田理事長はみくに園での仕事だけでなく財団法人日本知的障害者福祉協会の役員として全国の施設との連携や地位の向上にも尽力されました。個人的に私もそのお手伝いをさせていただいたこともあります。非常に懐かしい思い出となりました。

数年前に保護者会の会長にとお話を頂いた時は非常に困惑しましたが、敬愛する高田理事長からのお話でしたので、高田理事長がお元気でいてくださる間は私でよければ、ということでお受けしました。それ以来お会いするたびに「時岡さん私この通り元気ですから」と声をかけてくださいました。

これからあの温和なお顔にお会いしたり、優しい言葉を聞いたりすることができないと思うと寂しくて仕方ありません。

みくに園の為にお忙しく過ごされてきた高田理事長、主のみもとでどうぞ安らかにお休みください。そしてこれからもみくに園を、入所者、職員、保護者、皆さんのことをずっとずっと見守ってください。

ありがとうございました。

高田久理事長へ

5年前、私が宿直勤務中に第一子が誕生しました。朝の船に飛び乗り病院へ駆けつけると、通院していた理事長とばったり会いました。一緒に面会を行い娘の誕生を喜び合ったことを覚えています。その後も娘の成長をよく聞いていただき、娘の写っている年賀状を手帳に挟んでくださったりと、いつも気にかけていただきました。仕事だけではなく、職員の家族のこととも大切にする方でした。

今後も職員一同、成長するよう努力していきます。どうか安らかにお眠りください。

副施設長 亀井進吾

「時間は自分で作るものだよ」

忙しさを理由に言い訳をしている私達に理事長がおっしゃった言葉です。奥様の介護をしながらも全国を飛び回って忙しくされておられる中少しの時間も無駄にせず飛行機で本を読まれているとお聞きし、驚いたことを覚えています。

学ぶこと、努力すること、品格、仕事への向き合い方、愛する心など理事長からたくさんのこと教えてもらいました。私が今福祉の仕事に関わり豊かな人生を送ることができていても理事長が導いて下さったからだと感謝しています。

総主任 高橋香織

大学を卒業してから数年後、実習指導に来られた恩師に、「成長したね」と言われました。みくに園は自分の長所を伸ばしてくれる場所だとその先生は言っていました。それは理事長の「品格を大事にする」という方針がみくに園に浸透しているからではないでしょうか。理事長は常に新しいことを求め、最先端のことを勉強していました。私自身まだまだ至らない部分はたくさんありますが、今後も品格を大切に、いくつになつても学ぶ姿勢を忘れないようにしたいです。

主任 柴田裕紀子

みくに園は私が幼い頃からある施設です。豊島で生まれ育った私は、中学生の時にみくに園でボランティア活動をしたことがあります。大学を卒業する頃には建物が拡張し、新しいみくに園になりました。身近なところで見ていた私は、今ではみくに園の生活支援員として働いています。

理事長がいつも言っていた言葉「向上の一路頂点なし」。この言葉を胸に、私自身が成長をし続けるよう努力していきます。理事長、天からみくに園を見守っていてください。

主任 松田卓也

行事報告



アート活動作品展示
(豊島公民館まつり)



豊島中学校交流運動会



みくにクリスマス会



豊島教会による
キャロリング

＜行事予定＞

- 2月 3日 節分（お菓子まき）
- 2月 14日 バレンタイン
- 3月 3日 ひな祭り
- 3月 4日 避難訓練・検査（消防立会）
- 4月 お花見



編集後記

先号の表紙のTさんの写真を見て、以前みくに園で踊りの講師をされていた方から「懐かしい」と連絡をいただきました。随分ご無沙汰していましたが去年のクリスマス会にご案内したところ遠方から来て下さいました。

みくに便りの編集に関わりながらも発信の意味を問うことがありました。しかし、みくに便りを通しての発信が誰かに届き、こうして数年振りの再会に繋がることもあるのだと実感することができました。

理事長という大きな標を失いましたが、これからは理事長の遺志を繋いでいくことが私たちの役割ではないかと思います。10年先も20年先もみくに園の利用者の方が幸せでありますように…。

今回のみくに便りは理事長の追悼号でお届けしました。

E-mail:kgk03317@nifty.com

FAX:0879-68-3920